

インフルエンザの予防接種を受ける前に必ずお読みください



■ インフルエンザについて

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって発症する病気です。主に、感染した人の咳やくしゃみなどによってい生じる飛沫や、ウイルスが付着した物などを介して感染します。主な症状は、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛等で、風邪に似た症状（咳・のどの痛み・鼻水）も見られます。高齢者や抵抗力が弱い方がかかった場合には、気管支炎や肺炎等の重い合併症を併発することがあります。

■ インフルエンザ予防接種の効果と接種時期

予防接種を受けることにより、インフルエンザの発症や重症化を予防する一定の効果があるとされています。ワクチンの効果は、接種後およそ2週間で現れ、約5ヶ月間程度持続するとされています。1月末から3月上旬の流行のピークにあわせて、12月中旬頃までの接種が望ましいとされています。

■ 予防接種を受ける前の注意

- この説明書をよく読み、予防接種の必要性や副反応について十分に理解してください。
- 予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める重要な情報です。各項目をよくお読みの上原則として接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。
- 予防接種を受ける前に、下の表の各項目に該当するかどうか、必ず確認してください。

予防接種を受けられない方	予防接種を受けるに当たり注意を要する方
- 接種当日、発熱がある方 - 重篤な急性疾患にかかっている方 - インフルエンザ予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある方 - 医師により接種が不相当と診断された方	- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方 - 過去にけいれんの既往のある方 - 過去に免疫不全の診断がなされている方および近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 - 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方 - 本剤の成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギー反応を起こすおそれのある方

■ 予防接種を受けた後の注意

- 接種部位を清潔に保ち、接種後は、激しい運動や過度の飲酒は避けるように注意してください。（入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすことはやめましょう。）
- 接種後30分間は、急な副反応が起こる場合がありますので、医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、この間は体調の変化に注意しましょう。接種部位の異常や体調不良がみられた場合には、速やかに医師に相談してください。

■ インフルエンザ予防接種の副反応と健康被害救済制度

副反応とは、ワクチンを接種したことによって体に生じる不都合な反応のことで、次のようなものがあります。

1. 重大な副反応

ショック症状	ショック、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難、血管浮腫 等）
その他	ギラン・バレー症候群、脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、けいれん、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、肝機能障害、黄疸、喘息発作、血小板減少性紫斑病、血小板減少、血管炎、間質性肺炎 等

2. その他の副反応

局所反応	発赤（赤み）、腫脹（腫れ）、疼痛（痛み）等の症状（通常2～3日程度で消失します。）
全身症状	発熱、悪寒（寒気）、頭痛、倦怠感（だるさ）等の症状（通常2～3日程度で消失します。）
過 敏 症	発疹、じんましん、紅斑、掻痒等の症状（まれに接種直後から数日中に出現します。）

なお、この予防接種によって副反応が現れ、医療機関での治療の必要が生じた場合又は生活に支障がでるような障害を残す等の健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

【お問い合わせ先】南アルプス市保健福祉部健康増進課 電話 055-284-6000